

旭消防署開設80周年記念誌

「旭区」と

共に歩んで

80
Osaka Fire Dept.
年



旭消防署開設80周年記念事業実行委員会

旭消防署のあゆみ

～旭区とともに～



旭区マスコットキャラクター
しょうぶちゃん

あべのたスカリイメージキャラクター
レスキューパンダたすけるくん

©2016.04 OMFD たすける

旭消防署開設 80 周年記念事業実行委員会

旭消防署開設 80 周年記念事業実行委員会委員長ご挨拶

旭防火協力会第 10 代会長
日本タクシー株式会社 代表取締役社長
坂 本 榮 二

旭消防署が開設80周年という記念すべき嘉節にあたり、旭区と旭消防署の豊かな歴史を振り返りひとことご挨拶を申し上げます。

昭和19年4月1日の旭消防署の開設後、消防行政を支援する市民団体として「旭火災予防協会」は、自治体消防発足前の昭和22年7月に創設されました。現在は「旭防火協力会」と名称を改め77年間にわたり旭区の防災意識の向上及び防火思想の普及を図り、消防業務の円滑な推進に寄与してまいりました。

また、広義的に目的を同じくする「旭自衛消防協議会」「旭区危険物防火協議会」「旭区公衆集合場防火協議会」「大阪市防火管理協会旭支部」「旭建睦会」と手を携え、消防署と共に歩んできた軌跡は今に引き継がれ、地域の皆様方の温かなご支援とご鞭撻に支えられたものと心から感謝しております。

平成7年に発生した「阪神淡路大震災」以降も、「東日本大震災」「平成30年7月豪雨災害」「令和6年能登半島地震」など私たちの記憶に深く刻まれた大規模な災害が発生しました。これらの災害へは、旭消防署の職員も緊急消防援助隊として被災地に派遣されました。消防職員の卓越した技術と献身により、被災地域の再建に貢献されたことに対し最大の敬意を表すと同時に、これらの災害は地域防災の必要性和地域社会の結束力、すなわち自助・共助の重要性を私たちに再認識させました。

これらを受け、これまで以上に地域支援を行い、事業所と地域住民が一致団結し高度な自助・共助を普及できる体制を整え、安全で安心なまちづくりへ貢献していきたいと考えております。まずはこの記念誌が旭区とともに歩む旭消防署の歴史を振り返り、未来への展望を描く貴重な資料となれば幸いです。

末尾になりましたが、本記念誌の制作にあたりご賛同いただきました各団体様、ご協力いただきました旭区民の皆様は心からの感謝を申し上げますとともに、発刊のご挨拶とさせていただきます。

大阪市消防局長・旭消防署長挨拶

記念のことば

大阪市消防局長
橋 口 博 之

旭消防署が今年度開設 80 周年を迎えるにあたり記念誌を発刊されますことを、心よりお喜び申し上げます。

旭消防署の開設から遅れること4年、大阪市消防局は昭和23年に発足して以来、市民の生命、身体及び財産をあらゆる災害から保護し、これらの災害による被害を軽減することを使命として、市民の皆様に安全と安心を提供してまいりました。

近年、新型コロナウイルス感染症や ICT の急激な発展など、社会情勢が目まぐるしく変化し、特に災害はより複雑で予測不可能なものとなりました。大都市・大阪の安全・安心を担う消防局として、複雑多様化する災害や消防を取り巻く社会環境の変化に的確に対応すべく、特に高齢者の安全対策を主眼とした消防行政を推進するほか、市民等が利用する施設の安全・安心と良質な救急行政サービスを確保するとともに、大規模災害への対応力の強化を図っています。

さらに、2025 年に開催される大阪・関西万博も見据えた「災害に強いまち、安全な都市」を目指していくためにも、より一層、災害の未然防止と被害の最小限化に向けて、全力を尽くす次第でございます。

最後になりましたが、この記念誌が旭区の皆様と旭消防署の絆をさらに深める轍となり、旭区がこれまで以上に災害のない住みよいまちとして発展されますことをお祈りいたしまして記念のことばといたします。

発刊によせて

旭消防署第 34 代消防署長
鎌 倉 ルリ子

旭消防署は昭和19年4月に開設され、今年度80周年を迎えることができました。これも旭区民の皆様をはじめ、区内消防協力団体及び関係各位の方々のご支援の賜物と心よりお礼申し上げます。

当署のこれまでを振り返りますと、昭和37年に大阪市内に先駆けて「防火推進モデル地区」を設け、火災件数の抑制に成功し、それが市内全域に広まり防火啓発の手本となったと記録されています。現在も地域での防災訓練は活発で、高い防火意識は今へと引き継がれています。

また、大規模災害に備えた地域の対応力を高めるため、大規模災害時の協力体制について区内事業所と当署間で協定の締結を進めています。加えて高齢者を火災等から守る「旭区高齢者防火サポーター制度」を令和4年度に新設し、関係各所の皆様と共に自助共助公助が機能する体制の構築を目指しています。

今般、区内の皆様の「安全・安心」への想いととも歩んでまいりました当署の記録を冊子及びデジタルブックとして取りまとめました。この記念誌が未来の防火防災意識の向上の一助となることを祈念し、署員一同、決意も新たに消防行政の充実強化を図ってまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

発刊にあたり、坂本記念事業実行委員会委員長の全面的なご協力をはじめ、多大なご支援をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

旭区の消防協力団体

●旭防火協力会

現会長：坂本 榮二 設立：昭和 22 年 7 月 会員数：113

旭消防署が行う消防諸般の業務推進に協力し、もって火災その他の災害を未然に防止し、その被害を軽減して区内の繁栄、福祉増進に寄与することを目的とする。

●旭自衛消防協議会

現会長：荒井 敏博 設立：昭和 35 年 2 月 会員数：27

会員所属の事業所等における災害の予防及び地域における災害活動の推進のため積極的に協議、検討を行い、また、被害を軽減するために必要な消防知識、技術の向上を図り、併せて自衛消防隊相互の親睦を図ることを目的とする。

●旭区危険物防火協議会

現会長：中大路 均 設立：昭和 35 年 10 月 会員数：49

危険物関係事業所相互の連絡協調とその事業の推進を図るため危険物関係法令を研究し、危険物施設の自主保安体制の確立を推進するとともに、危険物に係る災害を未然に防止するための知識及び技術の向上を図り、また地域における防災活動の推進のため積極的に協議、検討を行い、併せて社会の福祉増進に寄与することを目的とする。

●旭区公衆集合場防火協議会

現会長：巽 久宜 設立：昭和 38 年 10 月 会員数：48

様々な業態の事業所を通じ、自主的に火災予防対策について、施設の研究改善と強化推進を図り、もって火災を防止するとともに、地域における防災活動の推進のために積極的に協議、検討を行い、社会の福祉増進に寄与することを目的とする。

●大阪市防火管理協会旭支部

現支部長：野口 修司 設立：昭和 39 年 10 月 会員数：62

会員相互の連携を密にするとともに、防火管理技術及び知識の向上発展並びに消防用設備等の充実に寄与し、防火対象物を火災等の災害から保護することを目的とする。

●旭建睦会

現会長：鈴鹿 清 設立：昭和 38 年 7 月 会員数：25

建築並びに消防用設備等の研修を行うとともに火災予防普及を推進し、また会員相互の親睦を図り、旭区内における防火活動の推進のため積極的に協議、検討を行い、災害に強いまちづくりの推進に寄与することを目的とする。

局 是 「明・強・敏」

「^{あか}明^{とも}る^{はげ}けく、共に^{つよ}励^たみて^さ強^{さと}から^{こた}め いざ立^たつときは^さ敏^{こた}く応えて」

明はその字の示す通り日月のごとく**明**るいことである。先ず職員は人に接するも事に臨むも常に明るく、起居動作に一抹の不快をも残さぬように努めたい。同僚には和を以って交わり、上司には敬を失わず、市民には親しみを忘れず、「ものの分かった消防」として終始したい。

各自は大阪市民の奉仕者である。この自己の立場を明確に自覚するならば市民より怨嗟非難を浴びる事実は断じて起こって来ぬ。

百尺の上空に深夜睡魔と闘い従事する火の見監視も渦巻く猛炎に爛額をさすってホースの突入も、油脂にまみれての機械の整備も皆消防を通じて市民への奉仕と思えば聊かの不満、苦しみとも感じられず私心さえ湧かず、唯々崇高な使命に自らを鼓舞する。

良心のみに従って誠実且つ公正に消防職務の遂行に当るには先ず何としても此の明るさを原動力とする。

凡そ人である限り未完成でない者はない。その完成への努力こそ**強**である。大阪市消防は人の集りである。その人も未完成で事足りようという人の集りではない。皆昨日より今日、今日より明日へと欠くことなき研鑽を積み一步でも高き完成人への努力の人の集りである。それでこそ市民の生命身体財産を護る盾の職責あると云い得る。豊かな強の包蔵が市民信頼に応える道である。

各自は強くならねばならぬ。強くなるには苦も伴う、厭きも生じよう、然しそれが市民のための消防三昧になりきるのだとすれば心頭滅却すれば火も亦涼しの境地に達しその中に言い知れぬ楽しみが湧いて来る。大阪市の災害除去には、機構、活動一つとして弱々しい消防の存在に用はない。

従って職員である以上強かろうとするためには確たる責任の所在を忘れず進むこととしよう。

強を積み満を持して待つ矢は市民に一旦緩急ある場合に放たれる。それも機を見るに**敏**なるを要する。鉄は熱する中に打てとの古語にもある通り消防の出動は寸刻を争う、自己の火の見が自己の通信が、自己の出立が相次いで消防全活動に大なるつながりを持ち一秒遅れたら市民の受ける災害の拡大如何にと思えば敏こそは各自死活の問題である。仮令強とたのむ蓄積があっても肝腎の場合この敏を欠くに至っては無用の長物になり了る。

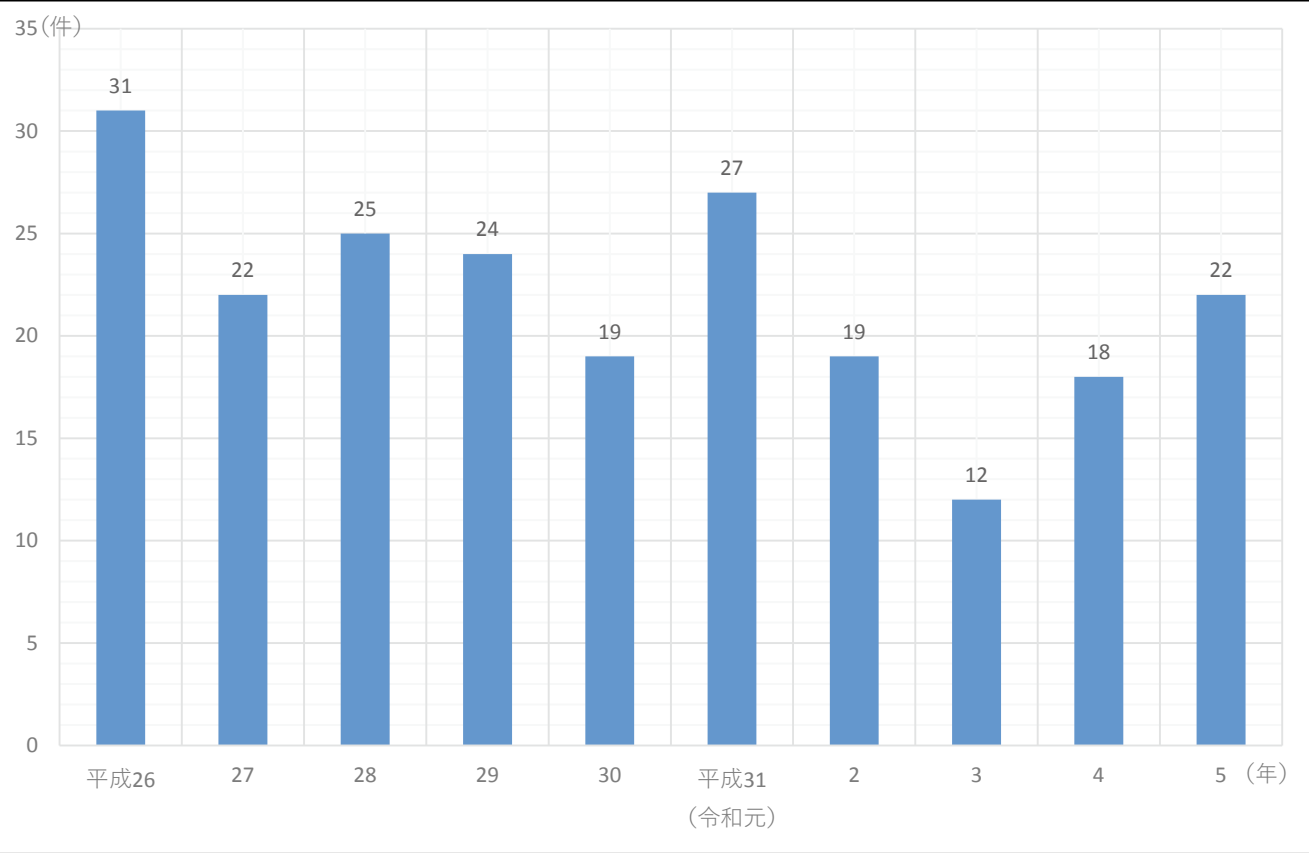
更に注意すべきは必ずしも要求の最も大きい時のみの敏とは限らない。日常ペンをとりハンマーを持つ一つの仕事にしても敏を以って完結したい。敢て拙速を選ばず又巧遅に堕さず巧速を専一とし職員一人残らず行動は敏活にし規律は厳正に敏の一貫を保持しよう。

以上考察の表現は異なるも長年培い来った諸君の心根に明、強、敏の三字は何れの一字も分離を許さず、各自精神として之を徹底し名実ともに日本一の消防たらんことを期するよう、切に要求してやまぬ。

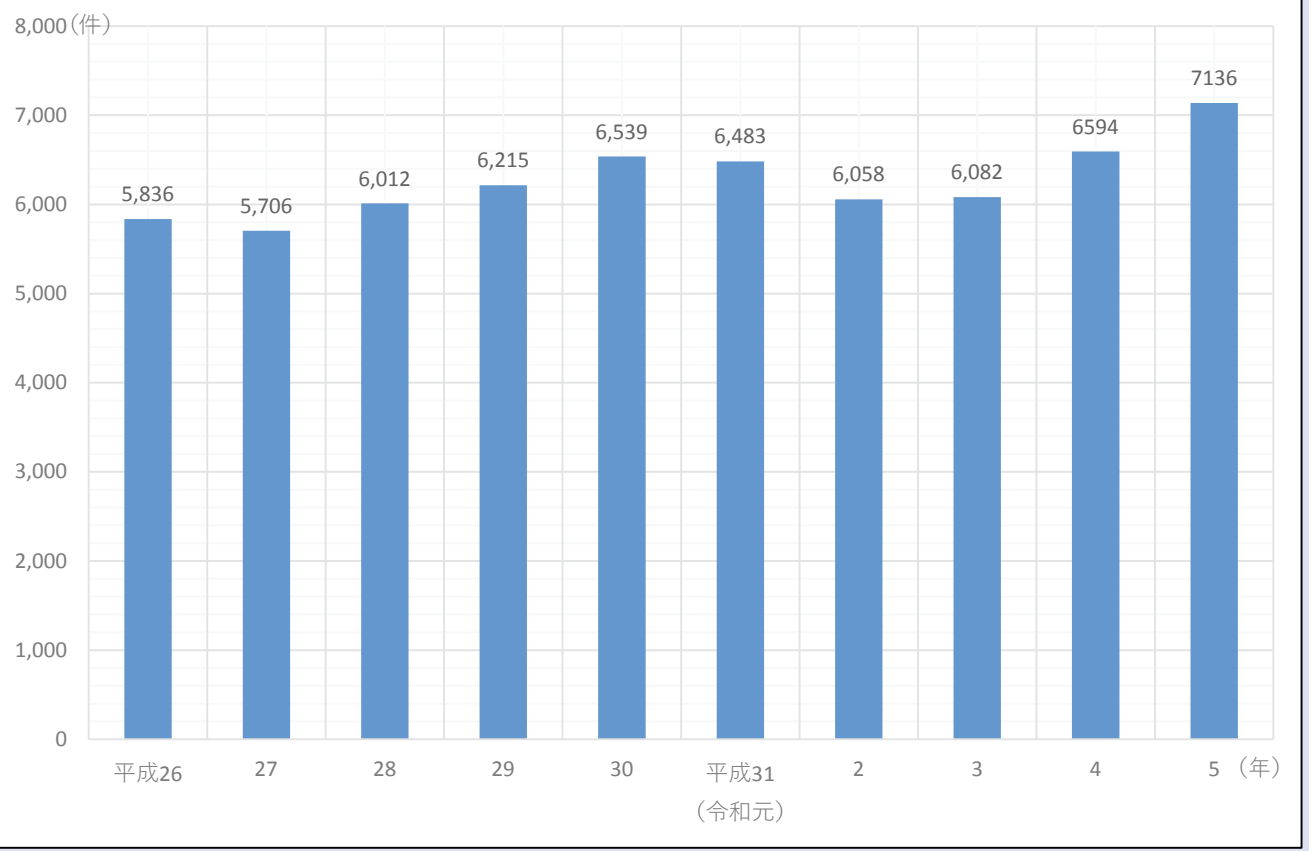
「初代消防局長 就任あいさつ」より

大阪市消防局職員は、局是である「明・強・敏」を胸に刻み日々勤務しています。

●旭区火災件数の推移



●旭区救急件数の推移



1925 年（大正 14 年）～1948 年（昭和 23 年）

年月日	できごと
1925 年（大正14年） 4 月 1 日	大阪府下の東成郡、西成郡が市域に編入されたことにより、消防組制度を廃止し、現旭区は特設消防署地域として北消防署の管轄区域となる。
1927 年（昭和 2 年） 4 月30日	北消防署 6 出張所竣工（東野田町 2 丁目 23 番地）
1928 年（昭和 3 年） 3 月 4 日	火災通報「119 番」運用開始
1929 年（昭和 3 年） 7 月 1 日	北消防署から分離し、今福消防署設立とともにその管轄区域となる。
1930 年（昭和 5 年） 4 月 1 日	北消防署第 6 出張所を今福消防署第 3 出張所に改称
8 月22日	今福消防署第 3 出張所を東野田出張所に改称
1938 年（昭和13年） 6 月 7 日	高倉出張所竣工（高倉町 3 丁目 11 番地の 2）
1944 年（昭和19年） 4 月 1 日	今福消防署の管轄区域をさらに城東消防署、旭消防署、都島消防署の管轄に分割 大阪府旭消防署開設 （赤川 2 丁目 66 番地） 署 員 数：署長以下 70 名 出 張 所：今市臨時出張所 主力機械：14 台
1945 年（昭和20年） 3 月13日	大阪大空襲
6 月29日	空襲により旭区の 40%を焼失し消防署の機能を失い、旭消防署は閉鎖され、城東消防署に併合
1947 年（昭和22年） 7 月12日	「旭火災予防協会」結成。初代会長に 浅利 敬二 氏就任
1948 年（昭和23年） 2 月 5 日	旭区、都島区両区を管轄区域とする旭消防署開設 署 員 数：署長以下 42 名 出 張 所：高倉・清水・東野田 主力機械：8 台
3 月 7 日	大阪市消防局初代消防局長に 松島 歳巳 氏着任 局是「明・強・敏」制定 『明るけく共に励みて強からめ、 いざ立つときは敏く応えて』

1948 年（昭和 23 年）～1965 年（昭和 40 年）

年月日	できごと
1948 年（昭和23年）	
3 月 7 日	消防組織法施行と同時に完全な自治体消防として大阪市旭消防署の発足となる。 本 署：赤川町 2 丁目 66 出 張 所：高倉・清水・東野田
8 月31日	本署望楼（火の見櫓）起工
11月 1 日	新清水出張所起工
12月16日	新清水出張所竣工（現新森中央公園の一角を借地し、暫定的に仮設建物で発足）
12月25日	本署に望楼竣工（90 尺 27. 3m）
1950 年（昭和25年）	
2 月 9 日	毎年 3 月 7 日を「消防記念日」と制定
6 月19日	「旭火災予防協会」を「旭防火協力会」に改称
1953 年（昭和28年）	
12月28日	清水出張所を閉鎖し、新森小路出張所を起工
1954 年（昭和29年）	
4 月 1 日	<u>旭消防署開設 10 周年</u>
5 月10日	新森小路出張所を竣工（新森小路南 2 丁目 74 番地）
6 月 8 日	本署増築
1955 年（昭和30年）	
1 月26日	大宮中学校少年消防クラブ結成 毎年 1 月 26 日を「文化財防火デー」と制定
1959 年（昭和34年）	
7 月20日	旭消防署の管轄区域から都島区を分離し、都島消防署が開設され、同時に高倉、東野田出張所も都島消防署の所管となる。
1960 年（昭和35年）	
2 月22日	「旭自衛消防研究会」結成。初代会長に 森 三治 氏就任
3 月11日	大阪府募集の防火作品に、太子橋小学校 6 年生 月出 操 さん 1 等賞受賞
9 月 1 日	毎年 9 月 1 日（大正 12 年関東大震災発災の日）を「防災の日」と制定
10月 1 日	「旭区危険物防火研究会」結成。初代会長に 高橋 満蔵 氏就任
10月18日	「旭区公衆集合場防火研究会」結成。初代会長に 竹内 駒造 氏就任
1962 年（昭和37年）	
11月20日	旭区高殿地区を市内初の「防火推進モデル」に設定
1963 年（昭和38年）	
7 月 3 日	「旭建睦会」結成。初代会長に 盛道 雄 氏就任
1964 年（昭和39年）	
4 月 1 日	<u>旭消防署開設 20 周年</u>
10月 1 日	大阪市防火管理協会発足 「大阪市防火管理協会旭支部」発足。初代支部長に 竹内 駒造 氏就任
1965 年（昭和40年）	
3 月 7 日	毎月 7 日を「防火推進の日」と制定

1967 年（昭和 42 年）～2001 年（平成 13 年）

年月日	できごと
1967 年（昭和42年）	
8 月 3 日	本署庁舎の起工式を挙行（大宮 5 丁目 35 番地の 1）
1968 年（昭和43年）	
3 月10日	現在の所在地に旭消防署新庁舎竣工
4 月 6 日	旧本署庁舎を赤川臨時出張所として事務開始
1970 年（昭和45年）	
5 月21日	赤川臨時出張所閉鎖
7 月11日	赤川出張所起工式を挙行
1971 年（昭和46年）	
2 月21日	赤川出張所竣工
1974 年（昭和49年）	
1 月 1 日	新森小路出張所を新森出張所と改称
4 月 1 日	<u>旭消防署開設 30 周年</u>
6 月 3 日	今市中学校少年消防クラブ結成
1978 年（昭和53年）	
6 月21日	旭陽中学校少年消防クラブ結成
9 月 1 日	「旭消防の概要」作成配付
12月21日	新森出張所竣工
1982 年（昭和57年）	
7 月 9 日	毎年 9 月 9 日を「救急の日」と制定
1984 年（昭和59年）	
4 月 1 日	<u>旭消防署開設 40 周年</u>
1986 年（昭和61年）	
11月 9 日	毎年 11 月 9 日を「119 番の日」と制定
1990 年（平成 2 年）	
6 月 8 日	「危険物安全週間」制定
1991 年（平成 3 年）	
2 月26日	「旭婦人防火クラブ」結成
9 月12日	「高齢者防火推進週間」制定
1992 年（平成 4 年）	
6 月16日	本署庁舎増改築完成祝賀会挙行
1994 年（平成 6 年）	
4 月 1 日	<u>旭消防署開設 50 周年</u>
5 月31日	旭消防署史上初の普通救命講習実施、心肺蘇生法の普及のため講習会を実施（受講者：23 名）
1995 年（平成 7 年）	「旭自衛消防研究会」を「旭自衛消防協議会」に改称
1996 年（平成 8 年）	「旭区危険物防火研究会」を「旭区危険物防火協議会」に改称
	「旭区公衆集合場防火研究会」を「旭区公衆集合場防火協議会」に改称
10月 1 日	旭消防署初の女性職員配属

年月日	できごと
2001 年（平成13年）	「旭婦人防火クラブ」を「旭区女性防火クラブ」に改称
2003 年（平成15年）	
9 月 1 日	旭消防署ホームページ開設（ https://www.city.osaka.lg.jp/shobo_asahi/ ）
2004 年（平成16年）	
4 月 1 日	旭消防署開設 60 周年
6 月 7 日	「旭区危険物防火協議会」第 4 代会長に 中大路 均 氏就任
2012 年（平成24年）	
6 月13日	「旭防火協力会」第 10 代会長に 坂本 榮二 氏就任
2014 年（平成26年）	
4 月 1 日	旭消防署開設 70 周年
6 月19日	「旭自衛消防協議会」第 11 代会長に 荒井 敏博 氏就任
2019 年（平成31年）	
2 月22日	区役所、警察署と「旭区安全・安心なまちづくりに関する協定書」締結
2021 年（令和 3 年）	
4 月 1 日	「大阪市防火管理協会旭支部」第 8 代支部長に 野口 修司 氏就任
2022 年（令和 4 年）	
4 月26日	「旭区公衆集合場防火協議会」第 8 代会長に 巽 久宜 氏就任
6 月10日	「旭建睦会」第 9 代会長に 鈴鹿 清 氏就任
9 月 1 日	「旭区高齢者防火サポーター制度」開始
12月16日	旭建睦会と「大規模災害時における救助活動時に必要な物資等の協力・提供に関する協定書」締結
2023 年（令和 5 年）	
2 月 3 日	大阪市旭区商店会連盟と「大規模災害時の物資等の協力・供給に関する協定書」締結
3 月 2 日	日本タクシー株式会社と「大規模災害時の消防活動への協力に関する協定書」締結
4 月 1 日	旭消防署第 34 代消防署長に大阪市消防局史上初の女性消防署長着任
2024 年（令和 6 年）	
3 月 8 日	株式会社万代と「地震・風水害等における消防車両の退避に関する協定書」締結
3 月11日	社会福祉法人清水福祉会、区役所と「大規模災害発生時に関する協定書」締結
3 月15日	社会福祉法人旭長寿の森、区役所と「大規模災害発生時に関する協定書」締結
4 月 1 日	旭消防署開設 80 周年
	「旭区女性防火クラブ」会長に 杉本 亜美 氏就任
9 月 7 日	旭消防署開設 80 周年記念式典開催

平成 7 年兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)以降の主な地震

●1995. 1. 17 （平成 7）（M7. 2）：『平成 7 年兵庫県南部地震』

『阪神・淡路大震災』活断層の活動によるいわゆる直下型地震。神戸・洲本で震度 6 だったが、現地調査により淡路島の一部から神戸市、宝塚市にかけて震度 7 の地域があることが明らかになった。多くの木造家屋、コンクリートの建物のほか、高速道路、新幹線を含む鉄道線路なども崩壊した。

被害は死者 6, 434 名、行方不明者 3 名、負傷者 43, 792 名、住宅全半壊 24 万棟以上、住宅全半焼 7, 000 棟以上など。早朝であったため、死者の多くは家屋の倒壊と火災によるもの。

●2000. 10. 6（平成 12）（M7. 3）：『平成 12 年鳥取県西部地震』

鳥取県境港市、日野町で震度 6 強、西伯町、溝口町等では震度 6 弱を記録。

被害は鳥取県、岡山県、島根県を中心に 1 府 9 県におよび、負傷者 182 名、住宅全壊 439 棟、半壊 3, 101 棟、一部破損 18, 544 棟。

●2001. 3. 24（平成 13）（M6. 7）：『芸予地震』

広島県河内町、大崎町などで震度 6 弱、広島県広島市、呉市、山口県阿東町、岩国市、愛媛県今治市などで震度 5 弱を記録。

被害は広島県、愛媛県を中心に 9 県におよび、死者 2 名、負傷者 288 名、住宅全壊 70 棟、半壊 774 棟、一部破損 48, 994 棟など。

●2004. 10. 23（平成 16）（M6. 8）：『新潟県中越地震』

川口町で震度 7 を記録。

被害は新潟県、福島県、群馬県、埼玉県、長野県を中心に 5 県におよび、死者 68 名、負傷者 4, 805 名、住宅全壊 3, 175 棟、半壊 13, 810 棟、一部破損 105, 682 棟など。

●2005. 3. 20（平成 17）（M7. 0）：『福岡県西方沖を震源とする地震』

福岡県西方沖を震源に福岡県福岡市、前原市、佐賀県みやき町で震度 6 弱を記録。

被害は福岡県の玄海島など島しょ部の被害が大きく、死者 1 名、負傷者 1, 204 名、住宅全壊 144 棟、半壊 353 棟、一部破損 9, 338 棟など。

●2007. 3. 25（平成 19）（M6. 9）：『平成 19 年（2007 年）能登半島地震』

石川県能登 七尾市、輪島市、穴水町で震度 6 強、石川県志賀町、中能登町、能登町で震度 6 弱を記録。

被害は新潟県、富山県、石川県、福井県の 4 県におよび、死者 1 名、負傷者 356 名、住宅全壊 686 棟、半壊 1, 740 棟、一部破損 26, 958 棟など。

●2007. 7. 16（平成 19）（M6. 8）：『新潟県中越沖地震』

新潟県上中越沖を震源に新潟県長岡市、柏崎市、刈羽村、長野県飯網町で震度 6 強、新潟県上越市、小千谷市、出雲崎町で震度 6 弱を記録。

被害は新潟県を中心に長野県、富山県におよび、死者 15 名、負傷者 2, 346 名、住宅全壊 1, 331 棟、半壊 5, 710 棟、一部破損 37, 633 棟など。なお、同日に新潟県中越地方を震源とする M5. 8 の地震が発生。

●2008. 6. 14（平成 20）（M7. 2）『岩手・宮城内陸地震』

岩手県内陸南部を震源に岩手県奥州市、宮城県栗原市で震度 6 強、宮城県大崎市で震度 6 弱を記録。

被害は岩手県を中心に宮城県、秋田県、山形県、福島県におよび、死者 17 名、行方不明者 6 名、負傷者 426 名、住宅全壊 30 棟、半壊 146 棟、一部破損 2, 521 棟など。

●2009. 8. 11（平成 21）（M6. 5）：『駿河湾を震源とする地震』

静岡県焼津市、伊豆市などで震度 6 弱、静岡県静岡市、富士宮市、袋井市などで震度 5 強を記録。

被害は静岡県を中心に 5 都県におよび、死者 1 名、負傷者 319 名、住宅半壊 6 棟、一部破損 8,672 棟など。

●2011. 3. 11（平成 23）（M9. 0）：『東日本大震災』

三陸沖を震源に宮城県栗原市で震度 7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度 6 強、岩手県、群馬県、埼玉県、千葉県などで震度 6 弱を記録。この地震では最大 9 m（検潮所での観測値）を超える津波が発生。

被害は岩手県、宮城県、福島県を中心に東日本広範囲におよび、死者 19,759 名、行方不明者 2,553 名、負傷者 6,242 名、住宅全壊 122,006 棟、半壊 283,160 棟、一部破損 749,934 棟、床上浸水 1,490 棟、床下浸水 9,785 棟など。山林火災や工場火災など、火災も 330 件発生した。

●2016. 4. 16（平成 28）（M7. 3）：『熊本県熊本地方を震源とする地震』

熊本県熊本地方を震源に熊本県益城町、西原村で震度 7、熊本県南阿蘇村などで震度 6 強、熊本県阿蘇市、大分県別府市などで震度 6 弱を記録。

被害は熊本県、大分県を中心に九州地方広範囲に及び、死者 273 名、負傷者 2,809 名、住宅全壊 8,667 棟、半壊 34,719 棟、一部破損 163,500 棟など。なお、同年 4 月 14 日にも同地点を震源とする M6. 5 の地震が発生。

●2018. 6. 18（平成 30）（M6. 1）：『大阪府北部地震』

大阪府北部を震源に大阪市北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市で震度 6 弱、大阪市都島区、東淀川区、旭区、淀川区、豊中市、吹田市、寝屋川市、摂津市、交野市、島本町、京都府などで震度 5 強、大阪市福島区、此花区、港区、西淀川区、生野区や滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県の一部で震度 5 弱を記録。この地震により大阪市内で 3 件、兵庫県尼崎市で 4 件の火災が発生した。

被害は、死者 6 名、負傷者 462 名、住宅全壊 21 棟、半壊 483 棟、一部破損 61,266 棟など。

●2018. 9. 6（平成 30）（M6. 7）：『平成 30 年北海道胆振東部地震』

北海道胆振地方中東部を震源に北海道厚真町で震度 7、北海道安平町、むかわ町で震度 6 強、北海道札幌市東区、千歳市、日高町、平取町で震度 6 弱を記録。

被害は厚真町、むかわ町を中心に死者 43 名、負傷者 782 名、住宅全壊 469 棟、半壊 1,660 棟、一部破損 13,849 棟など。

●2021. 2. 13（令和 3）（M7. 3）：『福島県沖を震源とする地震』

福島県沖を震源に福島県相馬市、国見町、新地町、宮城県蔵王町で震度 6 強、福島県福島市、宮城県石巻市などで震度 6 弱を記録。

被害は福島県、宮城県を中心に東北地方や関東地方等広範囲に及び、死者 3 名、負傷者 184 名、住宅全壊 144 棟、半壊 3,070 棟、一部破損 35,361 棟など。

●2022. 3. 16（令和 4）（M7. 4）：『福島県沖を震源とする地震』

福島県沖を震源に福島県相馬市、南相馬市、国見町、宮城県登米市、蔵王町で震度 6 強、福島県福島市、宮城県石巻市などで震度 6 弱を記録。

被害は福島県、宮城県を中心に東北地方や関東地方等広範囲に及び、死者 4 名、負傷者 248 名、住宅全壊 224 棟、半壊 4,630 棟、一部破損 52,388 棟など。

●2024. 1. 1（令和 6）（M7. 6）：『令和 6 年能登半島地震』

旭消防署の 1 年

1 月 大阪市消防局出初式 署旗大隊



1 月 大阪市消防局出初式 機械部隊



2 月 地域防災リーダーアドバンス研修（消火）



3 月 ジュニア防災リーダー研修



3 月 消防署開放デー



3 月 春の火災予防運動（防火・防災フェスタ）



7 月 署内警防技術練成会



8 月 区民まつり



9 月 女性防火クラブ研修会



10 月 地域防災リーダーアドバンス研修（救助）



11 月 秋の火災予防運動（講演会）



11 月 自衛消防協議会練成会



12 月 警察署・消防署合同歳末警戒部隊発隊式



庁舎紹介

●旭消防署と望楼(1948年(昭和23年)竣工)



●新森小路出張所(1954年(昭和29年)竣工)



●赤川出張所(1971年(昭和46年)竣工)



●現在の旭消防署と望楼(1968年(昭和43年)竣工)



●現在の新森出張所(1978年(昭和53年)竣工)



●現在の赤川出張所(1971年(昭和46年)竣工)



本署庁舎内紹介

●署長室



●しょうぶちゃんフィギュア (2023年署員作成)



●バックボード (2023年防火協会寄贈)



●事務所



●講堂



●訓練棟



消防車両紹介

救助車



R75 2013年3月6日配置

小型タンク車



ST155 2021年2月23日配置

小型タンク車



ST245 2021年2月23日配置

小型タンク車



ST233 2023年3月2日配置

小型タンク車



STR186 2024年3月22日配置

所轄指揮車



CC316 2020年4月1日配置

消防車両紹介

はしご車 (40m級)



L23 2009年3月11日配置

救急車



A360 2021年3月11日配置

救急車



A235 2024年3月22日配置

広報車



P1505 2015年2月24日配置

事務連絡車



日産パネット 2012年4月2日配置

旭消防署開設 80 周年記念事業の記録

●旭消防署開設 80 周年記念事業実行委員会

委員長 坂本 榮二

委員 中大路 均 福崎 敏博 荒井 敏博 加藤 進 鈴鹿 清

会計理事 巽 久宜

会計監査 野口 修司 片平 周作

●協賛

旭防火協力会 旭自衛消防協議会 旭区危険物防火協議会 旭区公衆集合場防火協議会

大阪市防火管理協会旭支部 旭建睦会

●旭消防署開設 80 周年記念誌プロジェクトチーム

編纂：倉橋 茂樹 判 広樹 佐藤 沙織 藤田 史郎

編集：石倉 昌幸 美馬 由夫 倉橋 茂樹

森 宏貴 判 広樹 佐藤 沙織 藤田 史郎 嶋 実樹 福田 睦

樽井 康德 近藤 和明 谷川 典之 藤原 信也 宮島 慶 齋藤 晶弘

大畑 智哉 磯部 健太 荒木 伸顕

あとかき

旭消防署が開設され、本年 4 月に 80 周年を迎えるにあたり、記念事業の一つとして旭消防署の歴史をたどり、今後の消防の発展を質するため記念誌を発刊することになりました。

次の 90 周年に向けて区民の皆様とともに歩み、署員一同一致団結し「安心・安全なまちづくり」に今後も努めていきます。

80 周年記念特設ホームページ



本記念誌を読まれた方限定で案内しております。

今回の記念事業に関する動画や写真を 1 年間掲載する予定です。

期限が過ぎればホームページは削除いたします。

旭消防署開設 80 周年記念誌

発刊日 令和 6 年 4 月 1 日

発行 旭消防署開設 80 周年記念事業実行委員会

大阪市旭消防署

大阪府大阪市旭区大宮 1-1-11

編集 旭消防署開設 80 周年記念誌プロジェクトチーム

印刷 大島印刷株式会社

〒554-0012

大阪府大阪市此花区西九条 3-2-16

